

〔渋川市国民健康保険あかぎ診療所のあり方に関する報告書挨拶文〕（案）

国保あかぎ診療所は、近年では診療者数が減少傾向にあり、一般会計からの繰入金が増加している状況が続いていることから、地域医療の継続だけでなく、その経営改革の必要性が大きく迫られていました。

このようななか、「渋川市国保あかぎ診療所のあり方検討委員会」が設置され、令和3年10月から令和4年2月まで5回の会議で、地域医療機関としての必要性やその経営形態について、委員各位の協力のもと検討して参りました。

本委員会における検討の結果、今後の運営形態については、これを一つに絞ることを行いませんでした。しかし、検討を重ねる上で、委員それぞれの立場からの意見により、現在の診療所の課題が明確になったほか、運営に関する様々な議論が交わされました。

これらは全て、地域の医療機関として存続を前提とする考えによるものであり、そのうえで、地域医療機関として持続可能な運営の確保に向けた様々な可能性について報告を取りまとめました。

今後、市において具体的な方針を定めるにあたっては、将来にわたり市民の生活を守り抜くという基本姿勢のもと、医療という命にかかわる問題としての認識と、医療資源の効率的な活用、多様化する地域ニーズへの対応などについて、市民の理解を得ながら迅速に実行していただくことを期待します。

最後に、本検討委員会開催にあたり、ご多用のなか真剣にご議論いただいた委員の方々をはじめ、関係者の皆様に厚く感謝とお礼を申し上げます。

令和4年2月

渋川市国民健康保険あかぎ診療所のあり方検討委員会  
委員長 川 島 理